

動
精神障害者自立支援活
動賞（リリー賞）の授賞式が五日、東京都内である関係づくりを心掛けて

広島の森さんら リリー賞を受賞

精神障害者の自立支援



森浩昭さん

り、福祉作業所の活動に
ビジネスの視点を持ち込
んで運営の支援を続けて
いる広島市中区、料亭支
配人森浩昭さん（45）ら二
人と二団体が受賞した。
（19面に森さんの横顔）
主催する「精神障害者
へのアンチステイグマ研

究会」代表の佐藤光源・
東北福祉大教授らが受
賞者に表彰状と副賞を手
渡した。

廣島県内の多數の作業
所と企業を結び、製品
の開発や販売促進などを
支援している森さんは
「お互いにメリットがあ
きた。今後は福祉の現
場と社会をつなぐ人材
育成にも取り組みたい」と
決意を新たにしてい
た。

（北村浩司）

第4回精神障害者自立支援活動賞授賞式
—ひとりひとりの輝くあしたへ—



精神障害者自立支援活動賞(リリー賞)を受賞した

もり
森 ひろあき
浩昭さん(45)

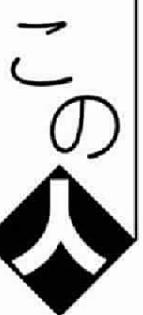


障害者が自立をめざして働く
福祉作業所。その商品開発や販
売を支援する活動を十五年続け
てきた。「みんなが得をするや
り方でないと長続きしない」が
持論だ。

広島市の、ある作業所は、材
料費の高さに悩んでいた。ガラ
ス会社に掛け合い、余ったビー
ズを提供してもらつた。できた

アクセサリーは人気商品に。ホ
テルの結婚式で使う名札立て
は、本業の料亭で出たかまぼこ
板を再利用。木工の得意な作業
所が新郎新婦の人形に加工し、
評判を呼んだ。

会社勤めを経験した後、家業
である広島市中区の老舗料亭に
入つた。当時の経営者だった祖
父に「人のためになる商売をし
ろ」と言われ、思いついたのが
福祉だった。金も人もない中小
企業に何ができるのか。まず現
場を知ろうと訪ねた作業所で、



アクセサリーは人気商品に。ホ
テルの結婚式で使う名札立て
は、本業の料亭で出たかまぼこ
板を再利用。木工の得意な作業
所が新郎新婦の人形に加工し、
評判を呼んだ。

真剣に織物作りに打ち込む障害
者の姿を見た感動が原点になつ
た。

利益生む仕組み徹底。「みんな得する活動を」

しかし、多くの作業所は販売
不振で得られる日当もわずか。
そこで本業の料亭の営業のノウ
ハウが生きた。どんなものなら
確実に売れて利益が出るか、企
業のニーズを徹底して聞き、小
回りがきく個性を生かす。企業
の側には目に見える社会貢献が
できる利点もある。「お情けで
買ってもらうだけでは、やりが
いも得られないし、企業と対等
の関係は築けない」

福祉団体や行政、企業の仲間
と意見を交わす「福祉を語る会」
も主宰する。「誰でも参加でき
る福祉」が理想だ。「行政も金
や人をたっぷり使える時代では
ない。それなら技術や知恵を生
かすしかない」。福祉をコーデ
ィネートできる人材を増やすこ
とに、次の夢をかける。

(北村浩司)